

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

～挑戦・発信・錬磨～

- 主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】
- 人を思いやり、自分や周りを大切にする心を育てる。【徳】
- 様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛える。【体・関】
- 社会の一員として、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付ける。【公・開】】

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

- 課題解決力・発信力・コミュニケーション力
（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」）
- 自己肯定感・協働・挑戦する気持
（「学びに向かう力、人間性等」）

具体化した資質・能力

- 自ら課題に向かおうとする力 自分の考えを明確に伝える力
- 人と積極的に交わり、未来を創造する力
- 自分や他人を認め、理解し合う力 失敗を恐れず、挑戦し続ける力

中期取組目標

- 社会とのつながり意識し、自ら課題を見つけ、その解決に向けて、他者と協働して、発信できる「学び」を充実させます。
- 1年目は、自らの考えを伝え合い、認め合う授業、行事等を推進します。
- 2年目は、生徒の思い、表現を大切にしながら、自らの意見を発信する場面を多く設けます。
- 3年目は、社会全体に目を向け、課題解決のために、他者と協働しながら、自分の考えを深め、自分の思いを的確に表現できるようにします。
- 学校、地域、家庭で連携して、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、何事にも自信をもって、挑戦する気持ちを育てます。
- 3年間を通して、一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえない」存在であることを実感し、個に応じた指導を充実させ、学校を自分らしく過ごせる「場」とします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①生徒が互いに学び合い、充実感、自己肯定感を高めていける授業を推進する。 ②データに基づいた分析から授業改善を行い、ユニバーサルデザインを意識した授業を実践する。
担当	学力向上推進部・ICT教育推進部

学力向上に関わる本校の状況

- 横浜市学力・学習状況調査、生活意識調査の結果から
- 学年が上がっていくにつれて、コミュニケーションをとることや、失敗をすることに抵抗感をもつ生徒が多いことが分かる。

今年度の目標

- 生徒が相互に学び合える場面を設定し、安心して参加できる集団を育成する中で、自己肯定感を高めていける授業を実施していく。

目標を実現するための具体的行動プラン

- グループワークやペアワークを取り入れ、授業中のコミュニケーションの機会を増やす。
- 発問や発達の仕方工夫し、生徒が発言しやすい風土を作る。
- 失敗しても大丈夫であるという雰囲気や人間関係を築く。
- 「わかる」「できた」「参加できた」という体験や充実感をめられるスモールステップを意識的に組み込んだ授業を行う。

- 学習状況調査の分析を行い、年度内に授業改善が行えるような研修をもつ。また年度内に授業改善ができるよう校内授業研を行い、授業力向上を図る。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①こども会議のテーマをもとに人権について考え、自他を大切にすることを育む。 ②学校教育活動全体で道徳教育を充実させ、一人ひとりの個性を認め、自尊感情を育む学校づくりを行う。
担当	道徳・人権推進部

豊かな心に関わる本校の状況

- (1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
- 生活意識調査の結果から、学年が上がるとともに、生徒の自尊感情や自己肯定感の低下がみられる。

今年度の目標

- 人権週間や道徳の授業等を通して、人権について「考える」、「触れる」機会を設定し、誰もが安心して豊かな心で過ごせる学年・学校づくりを行っていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・「人権作文」に全校で取り組み、人権に関する意識を高める。また、お互いに人権に関する意識を共有するために学級での道徳授業の活用。
- ・平和学習「よこはま子ども国際スピーチコンテスト」の取組を通し、国際平和への理解を深める。
- ・道徳・総合の時間を活用し、コミュニケーション能力を高め、仲間との関わりの中で自分の存在を認め、自らの役割を担う中で自尊感情を高められるような活動を意図的・計画的に行う。特に道徳では、全職員で授業改善に努め、生徒の内面的な成長につなげられるようとする。同時にあらゆる差別は「差別する側の問題」（自らが差別する側にいること）であることを子どもに分かる学びの場をつくる。
- ・日々の教科授業の中で「グループ活動」を取り入れ、お互いに学び合う機会を設定し、「人とつながる」「人から学ぶ」「自分を大切に」「他の人も大切に」できる感覚を育む。

- ・上半期の活動の振り返りを行い、下半期にある「人権週間」への取組につなげていく。
- ・人権週間では、生徒に向けた講話や職員に向けた研修の機会を持ち、人権意識の向上につなげていきたい。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康安全教育	①休み時間に校庭で遊ぶ生徒の数を増やし、スポーツを通してのコミュニケーションの促進を図る。 ②健康・安全について主体的に実践できるよう、計画的に健康教育を実践する。
担当	保健安全指導部

健やかな体に関わる本校の状況

- 健やかな体に関わる生徒の実態
- 朝ご飯は9割の子どもたちが食べているが同じ時間に起きたり、寝たりしている子どもたちは7～8割。睡眠の量や質によっては朝ご飯を食べられない子どもたちもいる。

今年度の目標

- SDGsの取組にもつなげて、運動、食事、睡眠、休養等の生活習慣を改善し、運動やスポーツに親しむことの楽しさや喜びを味わうことのできる活動を実施していく。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 朝ご飯をしっかり食べてきている生徒が多いが、水分を摂っていない生徒が多い。熱中症対策の呼びかけをするようにする。
- 規則正しい生活習慣を確立させるためにも、休養・睡眠の質を上げることが大切であり、そのための手段として休み時間の外遊びを増やすよう検討する。
- 課題解決に向けた具体的な実践につなげられるようにするために、新体力テストの結果や健康診断の結果を一人ひとりの生徒が振り返る時間を設定する。
- 学校保健委員会の取組を上手く活用し、学校全体で意識向上につなげていく。

- 上半期の取組を振り返りながら、課題解決に取り組む態度や課題を解決するための適切な意思決定や行動選択が行う力が育まれるようにする。